



## 研究・イノベーション学会の活動

隅藏 康一\*1 · 小沼 良直\*2 · 永野 博\*1

### Activity of Japan Society for Research Policy and Innovation Management (JSRPIM)

Koichi SUMIKURA \*1 , Yoshinao ONUMA \*2 , and Hiroshi NAGANO \*1

**Abstract**— Science and technology (S&T) is the base of development in industry, region, country and human society. How to use S&T for economic, societal, cultural development and creation of innovation, and how to manage research and development (R&D) for national policy and corporate management have become one of the most important issues. It is necessary to encourage creativity, to promote effective research and efficient technology development and to form original system of innovation in harmony with human, society and nature. For this purpose, the Japan Society for Research Policy and Innovation Management investigate and theorize the essential properties of the R&D process and improve them in the practical process. The society will address “basic knowledge system” and “accumulation of diverse practical knowledge” broadly related to management of society and economics and relevant policy based on R&D and Innovation.

**Keywords**— Innovation, Science and Technology Policy, R&D, Management of Technology

#### 1. 本学会の目的

科学技術は、企業、地域、国および人類社会発展の基盤となっています。科学技術をいかに経済・社会・文化の発展に役立ててイノベーション創出につなげるか、ならびにそのための研究開発や科学技術のマネジメントは、国の政策や企業の経営において、最も重要な課題の一つになっています。そのため、科学技術や研究開発過程の本質を計画者の視角から追究し、理論化して、その学問的に整理された体系を基盤とし、それらを実践的に改善していくことが必要です。

本学会は、研究開発・イノベーションに軸足を置きつつ、広く社会経済の経営や政策に関わる「基盤的知識体系」と「多様な経験的知識の集積」を扱うことを目的として、1985年10月に設立されました。

本学会は、イノベーションの創出に向けた企業経営・マネジメントの向上、科学技術・イノベーション関連政策の分析・評価・提言など、研究開発およびイノベーシ

ンに関する経営および政策についての学術研究および研究交流を図ることを目指しています。

#### 2. 本学会の課題

本学会の課題は、研究開発・イノベーションにかかわる企画・計画、イノベーション創出に向けた企業経営・マネジメント、科学技術・イノベーション関連政策の分析・評価・提言、研究開発・イノベーションの国際的戦略と経営、科学技術の発展に伴う社会の変化への対応、科学技術・イノベーションの公共理解の増進、など企業・大学・国公立研究機関の課題から、地域・国・国際レベルの課題までを広く含んでいます。

その解明と解決のためには、企業、大学、国公立研究機関などの研究推進主体が互いに連携し、その成果を相互に交流し、活用しあうことが大切です。

本学会は、科学技術・イノベーションの予測、企画、計画、調整、評価等、研究開発を計画主体の立場から推進する産・官・学の学識経験者や実務家などが広く交流し・啓発しあうことのできる学際的な“新しい場”を提供したいと考え、年次大会の開催、シンポジウムの開催、分科会活動、学会誌の刊行などの活動を展開しております。

\*1 政策研究大学院大学 東京都港区六本木 7-22-1

\*2 公益財団法人未来工学研究所 東京都江東区深川 2-6-11

\*1 National Graduate Institute for Policy Studies, 7-22-1 Roppongi, Minato-ku, Tokyo

\*2 Institute for Future Engineering, 2-6-11 Fukagawa Koto-ku, Tokyo

### 3. 本学会の会員

本学会は、科学技術の推進・研究開発・利用に係わる広い分野の人たちで構成されています。たとえば、以下のような方々です。

- ・企業の技術経営者および技術企画管理スタッフ、研究開発マネジャー
- ・科学技術関連政策の立案推進者
- ・国・公立研究機関の研究所長、スタッフ、マネジャー
- ・大学の研究指導者、研究組織の運営担当者
- ・シンクタンクの経営者・研究者および、経営・技術コンサルタント
- ・研究開発推進団体の役員および推進者
- ・科学技術ジャーナリスト
- ・研究技術政策および研究技術経営に関する研究者

### 4. 活動概要

本学会は、毎年10-11月頃に、年次学術大会を開催し、一般講演、シンポジウム等が設定されています。2016年度は、11月5-6日に、青山学院大学で開催され、約220件の研究発表が予定されています。

また、毎年7月頃には、シンポジウムを開き、今日的なテーマを掲げ、基調講演、事例紹介等に続いて総合討論を行っております。

会員の関心の高い分野については、分科会を設け自主的な研究・交流会を開催しています。分科会主査を中心に定期的に（多くは毎月、夕刻）開催され、通常講演と自由討論が行われています。

学会誌『研究技術計画（The Journal of Science Policy and Research Management）』を年4回発行しています。英文による論文投稿も可能です。内容は、論文、研究ノート、書評などで構成されています。

### 5. 学会名の改称

本学会は、2015年10月まで「研究・技術計画学会」という名称でしたが、以下のような背景から、学会の在り方検討が行われるようになりました。

2013年度の年次大会初日のセッションにてパネル・ディスカッションで学会の在り方について議論が行われ、多くの問題が指摘されました。学会の活動内容が時代の変化に対応できていないのではないか、内容が先進的ではない、活動の中身に魅力が感じられない、といった問題です。学会も30周年が近く、この機会に大々的に在り方を見直すべきではないか、という意見が提起されました。

こうした問題意識を受け、2014年度・2015年度に、学会の在り方に関する検討を行いました。

学会設立から約30年が経過し、その間、様々な変化が生じています。たとえば、社会全体としては、グローバル化が進展し、世界全体の競争環境が激化し、イノベーション競争が生じています。情報通信技術の進展により、新たな社会環境・事業環境が出現するなど、先行モデルのない時代へと突入しています。企業の技術経営については、1990年代は研究開発の効率化など、効率化要求が強かったのですが、その後、イノベーションへの要求が強くなってきました。その結果、「技術経営」から「イノベーション・マネジメント」へと重点がシフトしてきました。科学技術政策においては、基礎研究の成果をいかに市場にだしていくかという、イノベーションを意識した問題意識が定着してきました。

そうした変化を踏まえて、本学会の年次大会や分科会では、「イノベーション」が多く取り上げられるようになりました。そのため、学会名を「研究・イノベーション学会」へと改めることが提案され、2015年9月に会員に投票を依頼して賛否を問うた結果、学会名を改称することとなりました。

今後も、時代の変化を取り入れつつ、会員のニーズに沿った新たな活動を展開してゆくことを目指しております。

---

#### 隅藏 康一



1970年10月5日生。98年東京大学大学院工学系研究科博士課程先端学際工学専攻修了。2001年政策研究大学院大学助教授、2007年同准教授、2016年同教授。現在に至る。2002年から研究・技術計画学会の事務局担当理事を務める。知的財産政策、産学連携政策、ライフサイエンス政策などの研究に従事。博士（工学）。

#### 小沼 良直



1981年早稲田大学理工学卒業後、東京ガス（株）入社。2003年（一社）研究産業協会調査研究部長、2009年（株）テクノリサーチ研究所調査研究部長、2012年（一財）日本総合研究所主席研究員を経て2013年より（公財）未来工学研究所主席研究員。専門分野はイノベーション・マネジメント、人材問題、産業政策など。2014～2015年度研究・技術計画学会筆頭庶務理事。

#### 永野 博



1971年に慶應義塾大学工学部、1973年に同大学法学部を卒業。2002年に文部科学省国際統括官、2004年に科学技術政策研究所長、2006年に科学技術振興機構（JST）理事、2007年に政策研究大学院大学教授。2011年よりOECDグローバルサイエンスフォーラム議長、2015年より慶應義塾大学特別招聘教授、研究・イノベーション学会会長、2016年に米国科学振興協会（AAAS）フェロー。

---